

第 21 回 CT サミット 参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

平成 29 年 7 月 8 日（土）に広島において第 21 回 CT サミットが開催されました。CT サミットは昨年も報告したかもしれませんが、平成 28 年からはそれまでの 1 社共催メーカーのサポートによる開催から CT サミット単独の開催になりました。CT サミット単独での開催は開催費用を含めた運営が今までとは大きく異なっており、プログラム毎に企業と共催する方式を採用する等、プログラム構成も従来とは違った形式での開催になっています。今回の CT サミットの当番世話人は広島大学病院の石風呂実氏でテーマは「CT データの叫び」と近年 CT から発生する大量のボリュームデータをいかにマネージメントし、有効活用していくことの重要性に焦点を当てた内容で石風呂氏の思いが強く伝わるテーマであったと感じています。プログラムの午前中には「CT の DRL (診断参考レベル) について」の講演があり、放射線防護の三原則から DRL の施設での活用、被ばくのリスクの考え方など、被ばくの低減や画質の最適化について、さらに CT データの有効活用として数値流体力学を用いた冠動脈や脳動脈瘤への応用とマルチモダリティの画像を使用した fusion image の臨床における活用についての講演がありました。

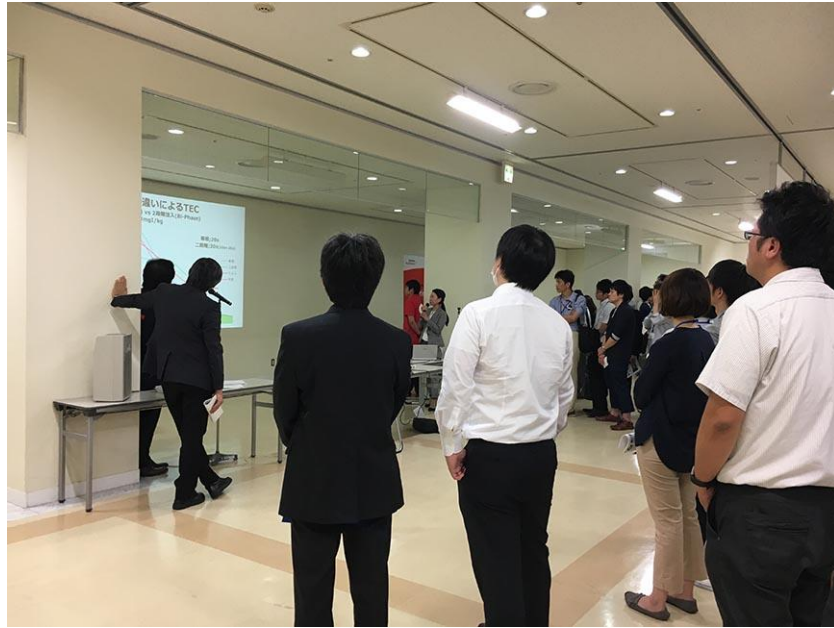
午後からのシンポジウムでは近年話題になっている「画像等手術支援」について頭部、腹部、整形領域、胸部・大血管領域における部位・疾患別毎の手術支援における画像作成手法などの報告があり、手術支援画像作成における重要なポイントを明確にすることが出来たのではないかと思います。私がこのシンポジウムで感じたことは手術支援には手術の術式のみならず解剖、そして医師が手術に必要な情報としてどのような画像が必要なのかを知ることが重要であり、臨床医との日頃からのコミュニケーションが大切であることを各演者の方の講演を聞いて感じました。



シンポジウムの様子

そして特別講演 1 には今回の JRC で東芝から発表された超高精細 CT(Aquilion Precision)の開発の経緯並びに臨床応用について藤田保健衛生大学の井田義宏氏より講演がありました。Aquilion Precision による微細構造の描出は今までにはなかった詳細な解剖学的情報を提供しており、今後画像転送などのデータのハンドリングが良くなることにより、装置の普及が現実的になるような気がしました。また特別講演 2 には熊本中央病院放射線科の片平和博先生より Philips の 2 層検出器を搭載した CT(IQon スペクトラル CT)を用いたスペクトラルイメージの臨床での有用性について報告されていました。超高精細さらにデュアルエネルギーCTは今後の CT の根幹となる技術と思われ、個人的には Aquilion ONE ベースで超高精細検出器更に 2 層検出器が搭載した CT が出たら、絶対買いたいと思っています。ただ金額がどれ程になるか、,,,,

会場ではメイン会場での機器メーカーによるランチョンセミナー以外に昨年より展示会場でのメーカープレゼンテーション等もあり、CT 装置以外に自動注入機,ワークステーションや PACS などの多くの最新情報を手に入れることもでき、参加者の多くに興味ある会だったのではないかと思います。



展示会場での機器メーカーからのプレゼンテーション

真夏の広島、会の後は例年行っている情報交換会もあり乾いた喉をビールで潤しながら、楽しい時間を過ごしていたようです。勿論、その後の二次会も大人数の参加で盛り上がっていました。来年は福岡でデュアルエネルギーCT をメインテーマで開催するようです。福岡は食べ物も美味しいですし内容もとても興味のあるものになっていますので、参加をお勧めします。



サミット終了後の情報交換会